

# 失敗さえも次につなげる 前向きな会社です

胃カメラの開発者で現社長の父親、杉浦睦夫氏が設立した杉浦研究所は、医用・工業用光学機器を開発、製造しています。大学病院の病理などで使われる臓器標本を撮影する機材を主力に、持ち前の研究者魂を発揮して、大企業の手がけない小さな市場分野でユニークな製品を次々と開発しています。ときには専門の光学以外の知識が必要な製品にもチャレンジしてものにしてきました。「父は何をやっても研究だと言ってまわりをワクワクさせていました」と2代目の杉浦静夫社長は振り返ります。

「持ち込まれた仕事は基本的に断らない。どうするかは後で考える陽気な会社なんです」と笑う杉浦社長は、現在、光による新しいがんの治療器の開発という難題に取り組んでいるそうです。仕事はうまくいかないこともあるが、そんな失敗の経験をさらに難しい次の仕事に生かすのも、先代から引き継いだ杉浦研究所の大切な姿勢です。



0.5ミリのイメージファイバー。先端に特殊なレンズが付いていて、どんなに曲けても画像が見える

ここがすごい!!

## 小さな需要でも 全力で対応せずにはられない

手術で摘出した患部の組織を撮影する装置には、現場からの要望に応えるためのたくさんのノウハウが詰まっています。きれいな写真が撮れなかった菌を培養するシャーレの撮影装置を開発したときには、「こんな写真が撮りたかった!」と研究者から絶賛されたそうです。

どんな需要にも全力で対応するため、試験管を宙に浮かせて撮影する装置や、歯科医が口の中を影を作らずに撮影する装置など、ものすごく欲しい人がいる反面、数は出ない商品もあるそうです。高評価なのに「売れないシリーズ」があるんです、と杉浦社長は苦笑します。



「苦労が楽しい」と言う設計の波辺さん



尿の出方を時間経過とともに記録する医療機器（ウロフロメーター）



2種類の光源できれいな写真が撮れる摘出臓器標本撮影装置

### 株式会社杉浦研究所

www.sugiken.com

代表者 杉浦 静夫  
所在地 世田谷区玉川4-5-4  
設立 昭和33年(1958年)  
主な事業 精密光学機器  
連絡先 ☎03-3700-4405



## VOICE 観察していると 面白いことが起こる

絶対に好奇心が大事。興味を持って見ていると面白いことが起こります。世の中の仕組みでも何でも観察して、面白がるのが大事です。面白くなったらそこに「オタク」のように突っ込んで突っ込んで突っ込んでいくと、アイデアが電灯のようにひらめきますよ。



杉浦静夫代表取締役社長